

河川砂防技術研究開発公募(地域課題分野)平成21年度採択テーマ

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
矢田川低水路における砂州の挙動・環境機能の解明と自然河岸形成に向けた技術・環境面からの検討(研究期間:H21年~H23年)	名城大学 溝口 敦子	B
<研究概要> 本共同研究では、コンクリート低水護岸が整備された矢田川下流域の自然河岸形成を目標として、現地調査、実験などを通じ、砂州の環境機能と自然河岸形成時の治水上の問題を整理、検討した。特に、砂州物理環境の形成過程と、伏流水・表流水挙動と水温形成および魚類生息環境を通じ砂州の環境機能について検討し、低水路形状、物理条件によって砂州の形状、平水流路の特徴が決まり、その環境機能が異なることなどを明確にした。		
<事後評価コメント> 本研究では、特に砂州による水温差形成とその差のヨシノボリへの影響について興味深い成果が得られており、研究の目的は概ね達成され、研究成果があったと言える。 今後、河床の捉え方や護岸の影響についての考察や、浸透流とヨシノボリの生息環境の関係性についての検討をさらに進めることを期待したい。		

※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い